

平成30年度
学校評価書(中間期)

愛南町立御荘中学校



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その1

平成30年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合					
							0	50	90									
I 個を大切に した生徒指導 の充実	①	いじめ・不登校防止	いじめ・不登校の防止や解消に向けた教育活動が実践されている。	中間期 A	◇生徒、保護者、教職員のすべての肯定率が9割を超えているため評定をAとした。学校生活アンケートや教育相談をはじめとする種々の取組で、いじめや不登校を初期の段階で解決している点が高い評価につながっていると思われる。	生徒2-3	69	23	7	2	0	91						
			保護者2-2			24	67	9	1	28	90							
	教職員3-1	48	52	0	0	0	100											
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定		◆2学期も、学校生活アンケートや教育相談等を利用しながら、生徒の悩みを解決していけるように支援していく。学校行事を通して、集団での連帯感や団結力を高めることで、生徒相互の自治力を向上させていく。また、家庭訪問や保護者との電話連絡を密にしていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・学校生活アンケート ・教育相談による情報												
II 学習意欲 の向上	②	楽しい学校生活	教師と生徒、生徒相互の好ましい人間関係・信頼関係が育まれ、生徒は楽しく学校生活を送っている。	中間期 A	◇生徒、保護者、教職員のすべての肯定率が9割を超えているため評定をAとした。ほとんどの生徒が落ち着いた学校生活を送っている。部活動や学校行事を通して、生徒の責任感や連帯感が育ってきていることが理由として考えられる。	生徒1-1	70	21	7	3	0	90						
			保護者1-1			49	47	5	0	0	95							
	教職員3-2	35	61	4	0	0	96											
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定		◆1年生の中には、まだ中学校の生活に慣れていないと判断できる生徒がいるため、支援をしながら自立を促していく。また、体育祭、文化祭などを通して生徒の信頼関係や団結力を育てていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・学校生活アンケート												
III 生徒の主体性 を生かす活動	③	生徒の主体性を生かす活動	生徒の主体性を生かした、生徒会活動や学校行事が実践されている。	中間期 A	◇全ての自己評価とも9割を超えているため、評定をAとした。評価4(全くそう思う)の割合は、生徒が一番高く、生徒会活動や学校行事に前向きに取り組んでいると考えられる。少数ではあるが、否定的回答もあるので、細やかな配慮のもと、生徒会活動や学校行事等の計画を立てる必要がある。	生徒1-10	67	29	3	1	0	96						
			保護者2-4			29	64	7	0	10	93							
	教職員4-1	39	61	0	0	0	100											
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定		◆企画会・委員会等で教職員が事前にしっかりと話し合いを行い、生徒に任せるところは任せ、生徒の自主的・主体的な活動になるよう、支える体制を整えていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉												

【学校運営協議会における意見・提案等】

- いじめや不登校の実態についてはどうか。心配な点がある場合は、生徒や保護者とのつながりを大切にしながら対応に努めてほしい。
- いじめ・不登校防止の取組について、「分からない」と回答している保護者の割合が気になる。
- 生徒と教師のつながりも大事だが、家庭における親子のつながりにも注意が必要。発達段階において、具体的な取組を知らせる必要があるのではないかと考えられる。
- 学校の指導が保護者にも透明性をもって伝わっていると、いろいろな誤解が生じにくくなるであろう。
- 学校での取組がホームページ等を通して、リアルタイムで伝わっていくのは大事にしていきたい部分である。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その2

平成30年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合		
													0	50	90
II 確かな学力の定着と向上	④	主体的・対話的で深い学び	主体的・対話的で深い学びを目指す、ねらいを明確にした分かる授業を実践している。	中間期 A	◇回答の肯定率が教職員も生徒も9割を達成しているため、評定はAとした。しかし、昨年度と比べ教職員の評価2が5%に増加している。生徒は、評価4の肯定的意見が多く、向上の傾向にある。評価2・1の回答も減少傾向だが、さらに分かる授業の充実を図る必要がある。	教職員2-1	32	64	5	0	0	95			
			生徒2-1	56	36	7	2	0	92						
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定		◆「授業のねらいの提示を90%以上」と設定していることを、校内研修等で教職員に徹底する必要があった。各授業の学習内容を生徒が理解し、主体的に取り組むことで学力向上につなげられる手立てを具体化する。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉									
⑤		主体的な研修・自己研鑽	研修や自己研鑽に主体的に取り組む、生徒一人一人に「学びに向かう力」を育て、きめ細かな学習指導、基礎的・基本的な事項の定着を図っている。	中間期 A	◇教職員全員が肯定的な評価であり評定をAとした。特に、「きめ細かな学習指導」や「基礎的・基本的な事項の定着」など、学力向上への取組がしっかりと行われているものと思われる。ただ、評価4よりも評価3が若干上回っているのは、「研修や自己研鑽への主体的な取組」が不十分なためではないかと考える。	教職員1-2	48	52	0	0	0	100			
			生徒1-2	40	45	13	3	0	85						
			【目標値】 教職員の8割以上が肯定		◆評価4を上げる必要がある。今後は、研究の視点を明確にすることで、目標を持って主体的に研修に取り組めるようにする。また、部会を立ち上げて体制づくりを行うなど、組織的に学力向上を図っていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉									
⑥		家庭学習習慣	1日90分以上(通塾も含む)の家庭学習の習慣が身に付いている。	中間期 B	◇保護者の評価が8割に達していないため評定はBとした。昨年と比較すると生徒、保護者ともに伸びている。個々の学習時間の差や学習内容の充実について課題は残る。保護者が生徒の学習状況を十分に把握できていないことも考えられるが、評価4の低さから、保護者には「もっと学習してほしい」という気持ちがあることが推察される。	生徒1-2	40	45	13	3	0	85			
			保護者1-5	22	49	25	5	0	70						
			【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定		◆学習委員会による集会での啓発や家庭学習時間調査が意識を高める上で効果的だったと考える。その中で、通塾している生徒としていない生徒の家庭学習に対する意識の差(「通塾すれば必然的に時間確保がされる」など)が見られる状況もあるため、生徒への指導に工夫を加ながら、保護者への啓発も継続的に行っていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・家庭学習時間調査									

【学校運営協議会における意見・提案等】

- 学習指導要領の改訂もあり、先生方も大変だと思いが頑張ってもらいたい。
- 「自分の得意分野」を探らせて、褒めながら伸ばしていく手立てをとってほしい。また、評価に関する研究も大変だろうが推進してほしい。
- 家庭学習について、本当に90分やっているかを把握するのは難しい。(部屋へのスマホの持ち込みなども、今の時代は心配である。)
- 家庭では生徒の「頑張らない姿」も見られるので、親の評価も辛めになるのかもしれない。(生徒がそういう姿を見せるのも、「家庭であればこそ」だが。)
- 家庭学習について、中学校では部活動もあるため、宿題の与え方等についても一律に考えることは難しいが、評価「A」への伸びを期待する。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その3

平成30年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート						%	4・3の割合					
							4	3	2	1	?		0	50	90			
Ⅲ 心の教育の推進	⑦	気持のよい言動 中学生らしい言動	時と場に応じた気持ちのよい挨拶ができ、中学生らしい言動がとれる生徒が育っている。	中間期 A	◇全ての評価項目において肯定率が8割を超えているので、評定をAとした。昨年度と比較すると、保護者と地域については同じ数値で、教職員が7%、生徒が6%の増加が見られた。評価2・1の項目を見ると、教職員や保護者においてはまだ不十分だと感じている人がいることが分かる。	教職員3-3	13	74	13	0	0	87						
			【目標値】 教職員・生徒・保護者・地域の8割以上が肯定	◆普段からの挨拶の指導や生徒会の挨拶運動などにより、挨拶の習慣が身に付いている生徒が多くなってきているが、挨拶をするときの表情や声の大きさなどに課題もある。挨拶をする相手によって態度を変えることのないよう、いつでも・どこでも・誰にでも気持ちのよい挨拶ができる生徒を育成する指導や取組を継続させる。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常の様子 ・生徒の挨拶運動の状況													
	⑧	人権尊重・心の通い合い	心が通い合い、互いの人格や人権を尊重した学校づくりがなされている。	中間期 A	◇生徒・保護者ともに肯定の回答が8割を超えているため、評定をAとした。しかし、評価2・1に回答した生徒・保護者もいるため十分だとは言えない。学校生活アンケートやいじめ対策委員会などから、思いやりや配慮に欠ける言動があることも確認できているため、個別の指導等を含めた対応が必要である。	生徒1-9	56	32	10	2	0	88						
			【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定		◆いじめや差別のない学校生活にするために、人権学習の充実や学校行事等を通じた学級や学年での望ましい人間関係づくりのための指導をこれまで以上に大切にしていける必要がある。互いに思いやりの気持ちを持って行動できる生徒の育成により、嫌な思いをしている生徒をなくし、互いの人格や人権を尊重した学校にしていく。	保護者2-3	20	65	13	2	19	85						
			〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常生活の状況 ・学校生活アンケートの結果 ・いじめ対策委員会を通じての情報															
⑨		道徳教育の充実	道徳の時間の充実が図られ、対話のある学びを通して、優しい心や道徳的実践力が育てられている。	中間期 A	◇教職員・生徒ともに肯定の回答が8割を超えているので、評定をAとした。しかし、評価2・1の否定的な回答をした生徒もあり、道徳の時間の学習や自分自身の成長の過程に満足していないと考えている状況も見られる。	教職員6-1	22	78	0	0	0	100						
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	◆来年度からの道徳の教科化に向けて、生徒の実態をしっかりと把握し、生徒に応じた授業づくりや生徒が考え議論することができるような授業を展開していく必要がある。このことを通して、生徒が様々な課題を見出し、主体的に考え多角的な見方や考え方を共有しながら、多様性社会を生きる上で必要な資質や能力を育成する。	生徒2-5	69	26	4	2	0	94							
〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常の言動や変容																		

【学校運営協議会における意見・提案等】

- 中間期としては、目標を達成していると言える。
- 道徳において、生徒の心情面の評価は難しくなると思うが、評価の在り方については研修を推進してほしい。
- 挨拶は家庭での習慣が基本。きちんとしたしつけを家庭教育にも投げ掛けていく必要がある。
- 校外での挨拶は、防犯上はどうか。個人ではできにくい、集団になるとできやすい傾向があるように思われるので、効果的に生かすとよい。
- アンケートの結果を受けて、何か問題があると判断する場合は、早めの投げ掛けや解決への道筋を立てていくことが大事になる。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その4

平成30年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合					
							0	50	90									
IV 健やかな体の育成と安全教育の推進	⑩	体力の向上	授業や部活動を通して、運動の習慣化と体力向上が図られている。	中間期 A	◇教職員・生徒とも目標値の8割を上回っており、評定をAとした。保健体育科の授業の始めに、基礎体力づくりとしてランニングや補強運動を年間通して行っていることが体力向上の一つの要因として考えられる。また、新体力テストの総合評価においても、A・B判定の割合がどの学年も5割を超えており、全体的に体力の向上が図られている。	教職員7-1	43	48	9	0	0	91						
			生徒1-4	65	25	8	2	0	90									
	【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定		◆新体力テストの総合評価では、低位判定の割合が2割を超えている状況である。その中でも男子の割合が非常に高く、男女ともに筋力、柔軟性、巧緻性に課題がある。今後は、授業、部活動での実践を改善し、「新体力テスト総合評価D・Eの男子生徒を20%・女子生徒を10%以下にする。」という本校の体力アップ推進計画の指標をクリアしていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・新体力テストの結果														
⑪	安全・安心な学校づくり	安全・防災教育の改善と充実を図り、生徒の命を守るためのあらゆる手立てを講じている。	中間期 A	◇生徒、保護者、教職員すべての回答の肯定率が9割以上であるため評定をAとした。日頃から生徒や教職員は、自らの命を守る意識を高く持っていることが考えられる。交通安全教室や防災教育、地域との連携を積み重ねた結果だと考えられる。	生徒2-6	84	13	2	2	0	96							
		保護者2-5	35	55	4	0	7	89										
【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定		◆今後も夏季休業中の避難訓練を実施するなど、交通安全、土砂災害等に対する安全意識の向上を図り、安全教育が幅広く、確実なものとなるよう指導が必要である。また、7月に起こった西日本豪雨災害の状況から、生徒自身の防災学習に対する意識が更に高まっており、教訓を継続的な取組の中に生かしていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・毎月の避難訓練の様子															
⑫	基本的生活習慣の定着	生徒自身による「早寝・早起き・朝ごはん」等、基本的生活習慣が定着している。	中間期 B	◇生徒の肯定評価は8割以上となっている。保護者の評価が8割を下回ったため評定をBとしたが、昨年度の保護者の評価より高くなってきている。生活チェックカードを毎月実施することにより、生徒の意識は高くなってきている。改善しようとする生徒がいる反面、就寝時間が遅い生徒や朝食を食べてこない生徒は固定化している。	生徒1-7	50	38	10	3	0	87							
		保護者1-4	45	33	19	2	0	78										
【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定		◆昨年度まで実施していた「ノーテレビ・ノーゲームの日」の実施も含め、学校保健委員会で協議し、その内容を保護者全体に知らせる。また、家庭の協力を求めるとともに、生徒による保健委員会の集会や「朝食の日」の活動を通して、生徒への働き掛けを継続していく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生活チェックカードの結果															

【学校運営協議会における意見・提案等】

- 評価書で示された改善方策の方向で、工夫・改善をよりよく推進してほしい。
- 「早寝・早起き・朝ごはん」は、中学生の生活に即している取組かどうかは疑問。部活動、家庭学習時間の確保が求められる中で、現実問題として厳しいのではないかな。
- 朝食を食べてこない生徒は固定化しているはずで、ある程度は焦点化して指導できると思われるので、保護者への働き掛けをしっかりとっていくとよい。
- 避難訓練は月一回の実施ということだが、「振り返り」をしっかりとさせてほしい。勉強も大事だが、命を守ることに對する教育を最優先にしていくことが大切である。
- 避難訓練では、避難所開設等の訓練を実際にやってみることを提案したい。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その5

平成30年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合									
													0	50	90							
V 家庭や地域との連携による特色ある学校づくり	⑬	地域とつながる教育	「人」や「仕事」など、地域とのつながりを生かした教育活動に工夫して取り組んでいる。	中間期 A	◇目標値をすべて上回っているため、評定をAとした。総合的な学習の時間に、3年生でえひめジョブチャレンジU-15、2年生で福祉学習、1年生で地域学習を実施した。また、トライアスロンやあまなつコンサートをはじめとした積極的なボランティア活動への参加等が行えている。地域とつながった活動を継続してきた結果が表れていると考えられる。	教職員4-2	43	57	0	0	0	100										
			【目標値】 教職員・保護者・地域の8割以上が肯定	◆2学期は体育祭や文化祭等の各行事、また地域との合同避難訓練や数多くのボランティア活動も予定されているので、その実践に向け、生徒・教職員ともに過度な負担とならないよう、工夫して取り組んでいく。地域とつながる教育の継続的な推進については、生徒の学習時間確保に対する配慮や学習領域の設定の工夫も必要である。	保護者2-6	24	53	8	1	14	90											
	【自己評価アンケート以外の評価材料】 ・体験学習後の生徒の感想等	地域2-2	34	43	5	0	18	94														
⑭	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実が図られ、関係機関との連携を図った教育的ニーズ対応した教育が実践されている。	中間期 A	◇保護者・教職員とも肯定の回答が8割以上であり、評定をAとした。支援を要する生徒への理解と対応について共通理解を行った。また、個別の指導計画を作成する上で、学年会や職員会議などで生徒の情報交換を密に行った。関係諸機関との連携を図りながら、支援の方向性を探り続けている。	保護者2-7	27	66	7	0	15	93											
		【目標値】 保護者・教職員の8割以上が肯定	◆作成した個別の指導計画を有効に活用するよう研修を進める。合理的配慮の視点から、誰にでも分かりやすい授業づくりを目指す。また、学習支援員や非常勤講師(中一ギャップ)による、生徒の状況に応じた効率的な支援を今後も継続して行う。	教職員5-1	39	57	4	0	0	96												
⑮	開かれた学校づくり	保護者や地域の意見・願いを幅広く聞くとともに、学校の取組や生徒の様子を積極的に公開するなどして、家庭・地域と連携した開かれた学校づくりに努めている。	中間期 A	◇保護者の8割以上が肯定的回答であること、学校・学年からの各種たよりが定期的に発行されていること、HPの更新がほぼ毎日行われていることから評定をAとした。HPが新しくなり、学年部からも集会や行事等がその都度更新され、昨年度よりも学校生活の様子を数多く発信することができた。	保護者3-3	46	40	12	2	1	85											
		【目標値】 ホームページ、各種たよりの保護者の閲覧率が8割以上	◆今後もこまめにHPの更新を行い、学校や学年からの各種たよりとともに、学校生活や学校行事、授業の様子、生徒会活動、部活動など、教育活動の様子を幅広く発信していく。また、HPの閲覧率の更なる向上や各種たよりの保護者への確実な手渡し状況把握について、啓発方法を工夫しながら、具体化していく。	【自己評価アンケート以外の評価材料】 ・ホームページ閲覧数の推移																		

【学校運営協議会における意見・提案等】

- 職場体験やボランティア活動を通じて様々な人との関係ができることは大切であり、今後も頑張らせてほしい。また、大人になったときに、必ず役立つことを意識させたい。
- 生徒たちに運動会や地域行事に多く参加してもらえるので、大変助かっている。
- 特別支援学級の生徒たちが、通常の学級の生徒たちと交流している形は継続してほしい。特別支援学級の生徒が、社会で自立できるように丁寧な指導を続けてほしい。
- 開かれた学校を目指して、学校と地域がつながる窓口を作り、学校に子どもが在籍していなくても、学校とつながれる手立てを考えていくことが大切である。
- ホームページは写真等も多くて見やすい。日々の更新は大変だと思うが、今後も発信をお願いしたい。(環境が整えば、学校・社会の双方向発信等にも今後期待したい。)